

障害者就労施設における生産活動の効率化に資するICT機器等の導入事業 実績報告書

自治体名 _____

【基本情報】

フリガナ	シカイクシホウシンブツエン
法人名	社会福祉法人佛子園
フリガナ	シェアナザワワークセンター
事業所名	Share金沢ワークセンター
提供サービス(複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択)	
就労継続支援A型	
職員数(常勤換算数)【「全職員の月間勤務時間数」÷「常勤職員の月間勤務時間数」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
8.3 人	

【申請に当たっての確認事項】 ※5つの事項について記載内容を確認し、チェックすること。

- ☐ ICT機器、工作機器及び治具を導入することで、障害者の従事可能な担当業務の拡充、作業の効率化が図られるものである。
- ☐ ICT機器、工作機器及び治具を導入することにより、利用者の工賃や賃金の向上が見込まれるものである。
- ☐ ICT機器等は生産活動を行うために利用者自身が使用するものである。
- ☐ 厚生労働省からの求めがあった場合は、ICT機器等導入の効果分析の公表等に対応する。
- ☐ 導入経費の算定に当たっては、複数の業者から見積書を徴している。

1. 事業計画

(1) 導入するICT機器(特に該当するものに☑ ※複数選択可)

- ☐ AI機器
- ☐ ロボット技術等
- ☐ アプリ・ソフトウェア
- ☐ 工作機器
- ☐ 治具
- ☐ その他

(2) 導入した主なICT機器等の内容

・ノートパソコン

・スマレジ

(3) ICT機器等を導入したきっかけ

・ノートパソコン
パソコン業務(データ入力、ラベル印刷等)ができる利用者さんが使えるパソコンが無かったため、利用者さんが使えるパソコンの導入を希望。

・スマレジ
今までのレジでは釣銭を自分で確認して渡さないといけなかったため、数字が苦手な利用者さんはレジ業務ができなかった。自動釣銭機能のあるスマレジを導入することで安心して業務に携われるため購入を希望。

(4) ICT機器等を導入した具体的な取組内容

・ノートパソコン
裏の控室に机、椅子を準備し、一部を利用者のパソコン業務スペースとする。

・スマレジ
店内のネット環境を整え、旧レジとスマレジを入れ替える。

(5) ICT機器等を導入した際の効果

数字を数えるのが苦手な利用者も自動釣銭機の機能があれば、臆することなくレジ業務に携わることが出来る。
パソコン業務の得意な利用者にはお弁当のポップ作りや、ナカフクリ食堂で作っているクッキーなどのラベル作りなど今まで出来なかった業務を担ってもらえることが出来る。
これら、利用者のやりたい仕事出来ることで本人のやる気やモチベーションアップにも繋がっていく。

(6) 事業所が抱える課題

今後パソコンでデータの整理や請求書の発行などの事務補助作業にも携わってもらえるように、勉強会などを実施していく必要がある。
スマレジのデータ集約をすることでお客様の流れや売れ筋などを把握できる。季節メニューなどを利用者も交えて一緒に考えることで、自分たちの思いを形にする経験を積みやりがいを引き出していくことに繋げていく。